

「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」（ボラサポ・北海道）

第1回助成決定にあたって

はじめに

平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震により、土砂災害に巻き込まれた住民の方が亡くなられ、多くの住宅が倒壊しました。また、液状化により道路などの損壊が相次ぎ、大規模な停電が発生するなど、多くの被害をもたらしました。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

特に被害が甚大だった震源地の厚真、安平、むかわの3町では、災害ボランティアセンターが開設され、ボランティアグループやNPO等による、救援・復旧・復興のための支援活動が行われました。また、札幌市内でも、札幌市社会福祉協議会が取り組んできた「地域における助け合い活動」を通じて、支援活動が行われました。

北海道胆振東部地震以前から多発していた災害の影響により、被災した各地でボランティアグループやNPO等によるボランティア活動が行われていました。そうした活動を支えるために、中央共同募金会では、大阪府北部地震、平成30年7月豪雨災害と並行して、台風21号災害、平成30年北海道胆振東部地震の被災地で支援活動を実施する団体への助成事業を実施することといたしました。

1. 第1回応募状況と助成決定状況

第1回助成の応募は、10月15日より受付を開始し、18件、合計3,265万円の応募がありました。

応募のあった18団体中12団体は北海道内に所在しており、発災当初から地元の団体が中心となり、他地域の団体と連携しながら支援活動を行っていることがうかがえました。

応募された活動内容は、発災当初に必要とされる炊き出しや災害ボランティアセンターの運営支援、被災された方が心のケアを行う足湯やマッサージ、こどもの支援としてプレーパークや学習支援など、緊急救援から生活支援と多岐にわたっています。

11月28日、第1回目の助成先を決める運営・審査委員会（以下委員会）を開催し、応募のあった活動内容と経費について審査を行いました。

北海道内の団体同士がつながり、協働しての活動や、支援活動の担い手として大学生の参加を促す活動など、応募要項に記載した「審査に当たって重視する点」に沿って評価され、16団体に対し、合計2,986万円の助成が決定しました。

また、活動内容は理解できましたが、応募書から活動の効果や必要性について読み取れない応募については、他団体の応募内容との相対的な評価から、減額での採択または不採択となった応募がありました。

2. 今後の予定について

現在、応急仮設住宅への入居がはじまっているものの、被災された方々が抱える慣れない環境や今後の生活に対する不安、みなし仮設住宅へ入居されたり、在宅避難をされている方々へ支援をどのように届けられるのか、など多くの課題が残っています。

今後は、生活支援やコミュニティ支援が必要とされていく中で、地域での支え合いが根付くことを願い、ボラサポ北海道にいただいたご寄付を、被災した3町での住民が支え合う活動に助成できるよう、しくみや体制を検討し、実施していく予定です。

最後となりましたが、本助成事業は、平成30年9月6日から募集をはじめた「台風21号災害、北海道胆振東部地震災害にともなうボラサポ（災害ボランティア・NPO活動サポート募金）」へのご寄付を財源として実施しています。

ボラサポへご理解、ご支援をいただいた多くのみなさまへ、深く感謝申し上げますとともに、今回、助成が決定した団体の皆さまにおかれては、寄付者の方がたから託された貴重な財源による助成であることを理解いただき、被災地の復旧・復興支援活動を通じ、被災された方々の支えとなる活動をしてくださることを期待しています。

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」
運営・審査委員会 委員長 山崎美貴子